

のアルバム

目指せ！！プロ野球選手

リプルクラブ主催による「第13回阪神タイガースジュニアベースボールスクール」が開催されました。

リプルジュニアをはじめ草津市・栗東市・近江八幡市の少年野球チームのメンバー約100人が阪神タイガースOB吉田浩氏・山東明氏から打撃指導と投手指導を受けました。

子どもたちは、元プロ野球選手の指導に目を輝かせながら元気いっぱい野球を楽しみました。

プロ野球選手になることを信じて！！

▼11月6日 蓮池の里多目的公園



▼11月5日 野洲小学校



社会貢献活動 地域防災のために

（公社）滋賀県建設産業団体連合会が災害対策などの社会資本整備事業の一環として、災害時に使用できる「かまどベンチ2基」を地域防災に役立ててほしいと野洲小学校に設置していただきました。

「かまどベンチ」は、通常時は「ベンチ」として、災害時には炊き出しができる「かまど」として活用します。

同連合会は、県内各地でこのような活動をされ地域防災に貢献されています。

歴史がある野洲小学校

野洲小学校創立130周年記念式典が野洲小学校体育館で開催されました。

記念式典では、6年生による「ふるさと」の合唱があり、引き続き記念講演として、野洲高等学校サッカー部山本佳司監督の「夢をかなえるために大切なこと」が行われ、参加者は、同校を全国優勝へ導いた体験談などを真剣に聞いておられました。

また、記念演奏として、野洲小学校卒業生のピアニスト、リード希亜奈さんのピアノ演奏を楽しみ有意義な1日となりました。

この日は、野洲小学校のシンボル「三健の像」を復元し、除幕式も行いました。

▼10月23日 野洲小学校



歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

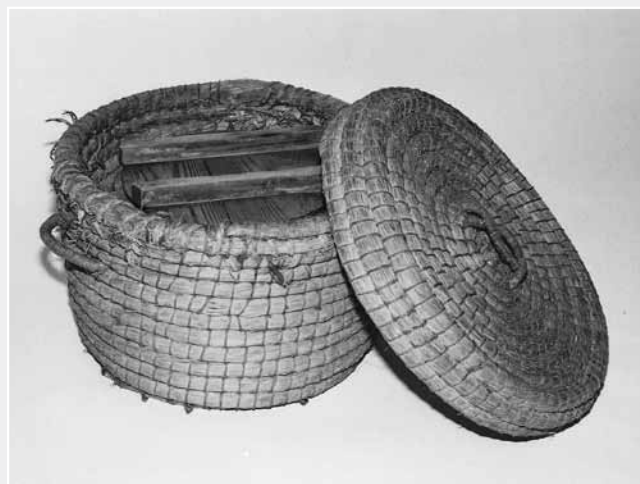
わらの民具「ふご」

わらは、かつては生活用具を作る身近な材料として欠かせないものでした。農家では、秋に米を収穫した後、冬の農閑期には、縄ない、俵編み、むしろ織り、わらぞうり作りなどを夜なべ仕事でしたものです。わらは、やわらかくて加工しやすく、保温性、断熱性、通気性、緩衝性といった利点を活かして様々な道具が生み出されてきました。

「ふご」は、わらを厚く束ねてぐるぐると巻き上げ、編んで作った容器です。身も蓋も同じ作りで、両側には持ち手を付け、蓋には持ち上げるつまみがあります。ふごは、寒い時期に炊いたご飯がさめないように、木製のおひつを入れて包み込むように保温するものです。よく見ると、縁を巻き込むなど手間をかけて仕上げてあるのがうかがえます。俵やわらぞうりよりも作るのが難しく、器用な人でないとできなかったそうです。後に電化製品の登場によって、保温用の電子ジャーを用いるようになり、今では炊飯器が保温機能を兼ね備え、炊いたご飯を移すこともなくなりました。この写真は、小学3年生・4年生社会科副読本『わたしたちの野州市』に掲載され、学習教材にもなっています。

今では、わらを用いた道具は、身の回りにほとんど見られなくなってしまいました。その形は素朴ですが、一つひとつに長い歴史の中で人々が生み出した知恵や工夫が込められています。テーマ展では、昔の道具や古い写真によりちょっと昔のくらしや風景を紹介していますので、地域のくらしを再発見してみてください。

(博物館学芸員 行俊 勉)



ふご

■テーマ展「古い道具と昔のくらし」1月29日(日)まで
休館日：月曜日（祝日は開館）、12月28日～1月4日、
1月10日
※市民は入館無料



地域の伝統行事を学び

野洲川でんくうの会が地域の伝統行事を後世に伝承する事業として「亥の子」づくりの指導と縄ぬいの実演を行いました。

当日は、親子など約20人の参加があり、それぞれの地域で「亥の子」を伝承するため講師から指導を受けました。

足踏式製縄機による縄ぬいの実演では、子どもたちは、完成まで不思議そうな表情で見学し、さっそく「亥の子」を使って伝統行事を体験しました。

伝統ある行事を大切に、後世に伝えていきましょう！

▼ 10月12日 野洲川田園空間センター



100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた戸倉雪子さん（富波甲 大正5年10月25日生まれ）へ市からお祝いを行いました。

いつまでもお元気で。